

7. 北洋底曳漁業の現状と「すけそう」について

宮 崎 昭 (日本水産)

- 1) 戦後29年に再開された底曳漁業も36年(33船団、400隻、漁獲高約62万吨)を頂点に漸次減少している。

このように不安定であるのは、①底魚資源或は海況、生物等の調査が未だ充分行なわれていない。②製品価格が不安定である。事等に起因するものと思われる。

39年度における母船式底曳漁業は 船団、228隻が出漁し、405,000屯の漁獲をあげた。その内訳は概略次の通り

魚 種 名	漁獲屯数	%
黄金かれい	48,000屯	12.0
浅黄かれい	15,000	3.7
油かれい	33,000	8.1
大 鱈	2,000	0.5
た ら	19,000	4.7
す け そ う	178,000	44.0
銀 だ ら	6,600	1.6
あらすかめぬけ	38,000	9.5
め ぬ け	800	0.2
に し ん	42,000	10.5
え び	20,500	5.1
そ の 他	800	0.2
生 産 高		
ミ ー ル	45,500	
ソリュール	6,500	
魚 油	7,300	
冷 凍	86,000	
缶 詰	約263,000ケース	

上記の数字を見ても判る如く、ここ1~2年前から対象とする魚種は、冷凍船団に於ては

“にしん” “あらすかめぬけ” ミール船団に於ては “すけそう” この他 “えび” の4種類に可成りはつきり大別されてきたようである。

2) “すけそう” について

ミール事業の主原料であつたかれい資源が減少するにつれ、ミール各船団は活路を “すけそう” に求め、38年度より “すけそう” 主体の操業に入つた。

未だ2~3年の操業で資源、海況、漁況等詳細は不明であり、今後調査研究を進めて行かねばならない。

玉栄丸船団の場合、許可海域の関係もあるが、ウニマツク北側およびブリビロフの北西側の2つに大別される。

玉栄丸船団に於ける “すけそう” 漁獲高

	ウニマツク北側	ブリビロフ北西側
38年度	4.0000 吨 (6%)	65.0000 吨 (94%)
39年度	24.0000 (30)	54.0000 (70)

以上のように玉栄丸船団に於ては、ブリビロフ北西側が主漁場となつている。

(ブリビロフ北西漁場)

セントマシューとセントポールの間に冷水の張出しが見られる。一方、南から暖水の差込みが強くなると6月初め頃から産卵の終つたと思われる “すけそう” が大陸棚に來遊し、暖・冷両水塊の境で漁場を形成するようである。

今迄の試験では、6月中は小型の “すけそう” が多く、魚探反応はあるがその割に漁獲は少ないようである。6月下旬から8月上旬にかけて中型の “すけそう” が出現し盛漁期となるが、水温上昇と共に魚群も漸次北上するようである。

38年度は $62^{\circ}N$, $178^{\circ}W$ 附近で大型の “すけそう” を漁獲したが、39年度は $59^{\circ}-30'N$ 以北は底水 $0.5^{\circ} \sim 1.0^{\circ}$ から上昇せず漁場になり得なかつたようである。

(年齢組成について)

過去2年間毎日 “すけそう” を5体ずつ採取測定し、耳石を持ち帰り、北水研の石田技官に査定してもらつた。

年齢と体長の関係は次の如くである。

年齢	体長
2才	30 cm以下
3	35~36
4	38~39
5	42~44

年齢	体長
6才	45~46 cm
7	48~49
⋮	
10	58~60 以上

38年、39年度の年齢組成について

各年度の全体の個体数を100%とし、各年級別に分けると、次表の如くなる。

年令 \ 年 度	38 年 度	39 年 度
2才	0.9%	0.3%
3才	0.6	27.0
4才	25.0	8.1
5才	33.4	36.0
6才	15.3	19.5
7才	4.2	7.8
8才	3.6	0.3
9才	3.6	0.9
10才	4.2	
11才	4.2	
12才以上	4.8	

38年度のサンプリング方法に若干疑点があり、また2年間の調査で結論づけるのは危険であるが、次の事が想像できる。

- (1) 39年度は38年に比べ一般的に魚体が小さかつたのは3才魚が増えた為と思われる。
- (2) 2才魚以下は漁獲の対象になりえないようである。
- (3) 漁獲の主対象となるのは3～6才魚特に4～5才魚と思われる。
- (4) 38年の3才、即ち39年の4才は少ないが、この年級群は発生が少なかったものと考えられる。

8. 1964年度おしよろ丸北洋サケマス漁場調査 (概要)

藤井 武治 (北海道大学水産学部)

1) 初漁期におけるAttu島南西海域の海況と漁況

毎年サケマス母船の5、6月の初漁期における漁場は大凡48°～50°N, 165°～170°Eの緯経度線に包まれる海域に形成されている。この海域はAleutian列島南側を西進するAlaskan Streamの西端とWestern Subarctic Gyreの接触する海域であり、サケマス漁場がこれ等2水系の接触面に形成される所謂潮目漁場である